

# 家計調査 平成20年10～12月期平均結果の概況

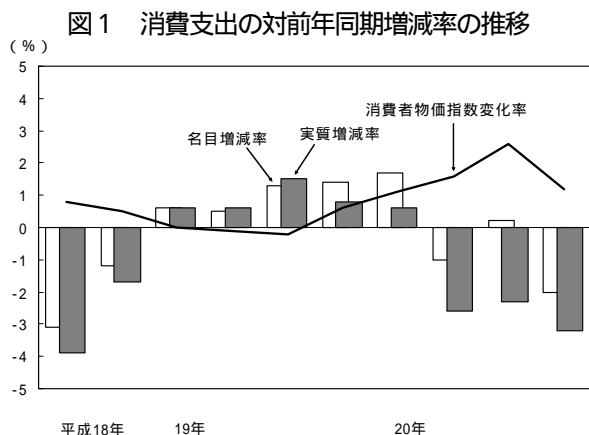
## - 家計収支編（二人以上の世帯） -

### 家計収支の概要

#### 1 消費支出は3期連続の実質減少

平成20年10～12月期の二人以上の世帯（平均世帯人員3.12人、世帯主の平均年齢55.5歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均304,414円で、前年同期に比べ名目2.0%の減少、実質3.2%の減少となっている。

最近の消費支出の動きを対前年同期比でみると、平成20年7～9月期は名目では増加、実質では減少となっているが、20年10～12月期は名目実質共に減少となっている（図1）。



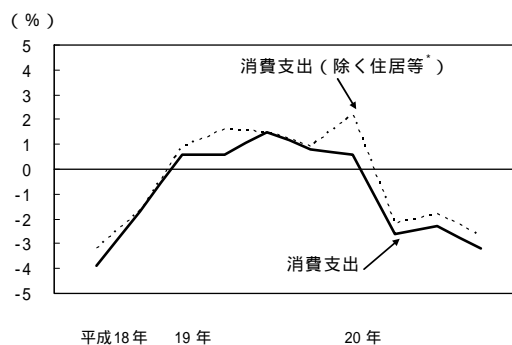
(注) は1～3月期 は4～6月期 は7～9月期  
は10～12月期を表す。以下同じ。

また、消費支出（除く住居等<sup>注1</sup>）についてみると、平成20年10～12月期は前年同期に比べ実質2.7%の減少となっている（図2）。

注1) 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」（下記URL）No.4を参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/index.htm>

図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移

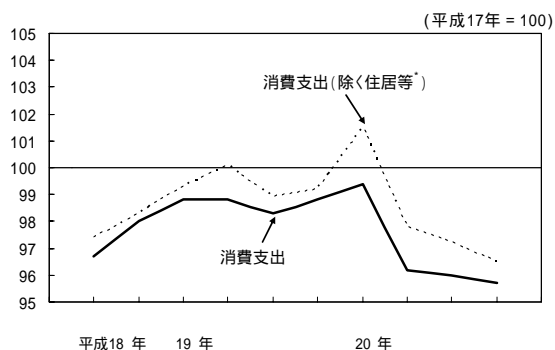


\* : 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。図3も同じ。

季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、平成20年10～12月期は前期に比べ実質0.3%の減少となっている。

また、消費支出（除く住居等<sup>注1</sup>）についてみると、平成20年10～12月期は前期に比べ実質0.7%の減少となっている（図3）。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移



2 その他の消費支出、光熱・水道などが実質減少に寄与

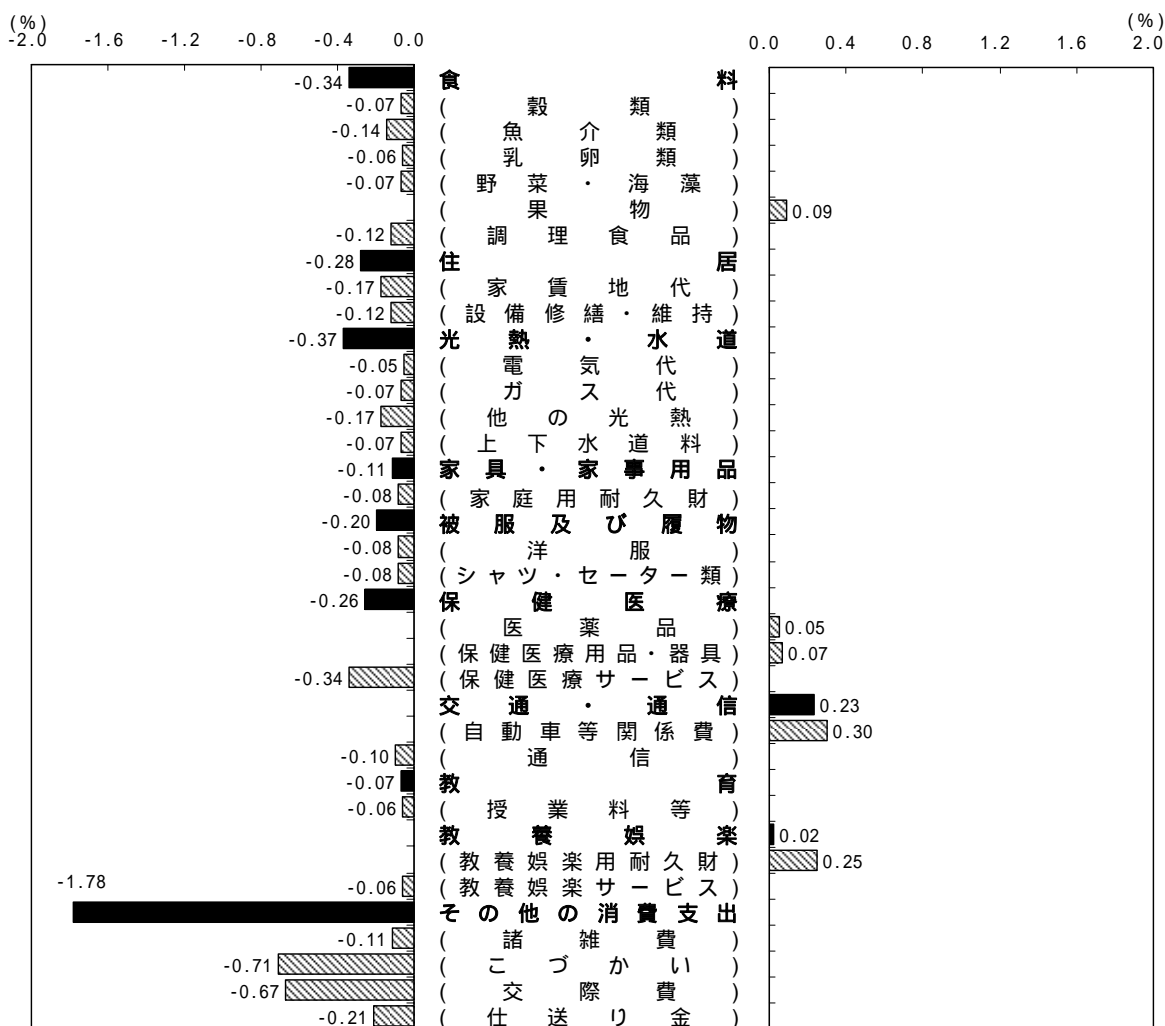
平成20年10～12月期の消費支出の対前年同期実質増減率に対する寄与度(%)を費目別にみると、こづかい(-0.71)及び交際費(-0.67)を含む「その他の消費支出」(-1.78)が消費支出の減少に大きく寄与した。

また、灯油などの「他の光熱」(-0.17)を含む光熱・水道(-0.37)、魚介類(-0.14)及び調理食品(-0.12)を含む食料(-0.34)、家賃地代(-0.17)を含む住居(-0.28)、保健医療サービ

ス(-0.34)を含む保健医療(-0.26)、洋服(-0.08)及びシャツ・セーター類(-0.08)を含む被服及び履物(-0.20)、家庭用耐久財(-0.08)を含む家具・家事用品(-0.11)、授業料等(-0.06)を含む教育(-0.07)も減少に寄与した。

一方、自動車購入などの自動車等関係費(+0.30)を含む交通・通信(+0.23)のほか、テレビなどの教養娯楽用耐久財(+0.25)を含む教養娯楽(+0.02)は消費支出の増加に寄与した(図4)。

図4 消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度



(注) 1. 平成20年10～12月期  
 2. グラフ中の黒棒の部分は10大費目を表す。  
 3. 「その他の消費支出」、こづかい、交際費及び仕送り金の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

**最近の家計消費の特徴**

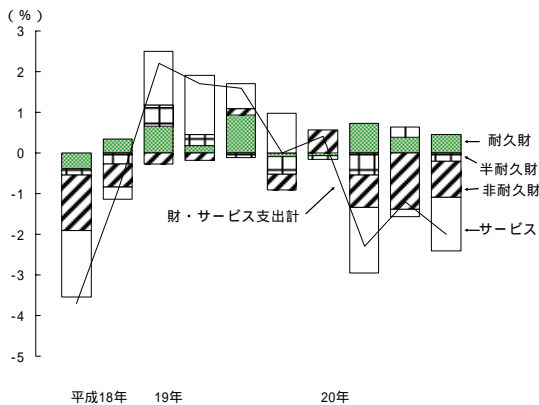
**1 財及びサービスは共に実質減少**

消費支出(こづかい、贈与金、「他の交際費」及び仕送り金を除く。以下「財・サービス支出計」という。)の四半期ごとの推移を4つの区分(耐久財、半耐久財、非耐久財及びサービス)別にみると、平成20年10~12月期は、耐久財を除くすべての区分が消費支出の減少に寄与した。

財への支出の内訳をみると、耐久財は、テレビやパーソナルコンピュータなどの教養娯楽耐久財が実質増加となったこともあり、寄与度0.46と消費支出の増加に寄与した。一方、半耐久財は、シャツ・セーター類が実質減少となったこともあり、寄与度-0.20と消費支出の減少に寄与した。非耐久財は、灯油などの「他の光熱」が実質減少となったこともあり、寄与度-0.88と消費支出の減少に寄与した。

また、サービスへの支出は、パック旅行費が実質減少となったこともあり、寄与度-1.34と消費支出の減少に寄与した(図5)。

図5 財・サービス支出計の対前年同期実質増減率に対する寄与度の推移



(注) 財・サービス支出計は、品目分類を再分類して集計しており、こづかい、贈与金、「他の交際費」及び仕送り金は含まれていない。

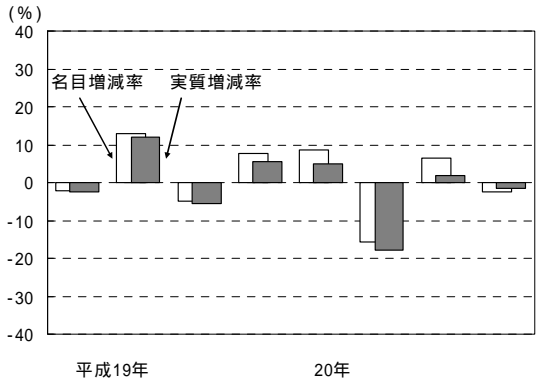
サービスの主な品目の動きをみると、次のようになっている。

**(1) パック旅行費は減少**

**国内パック旅行費**

国内パック旅行費は、平成20年10~12月期は実質1.4%の減少となっており、4~6月期以来2期ぶりの実質減少となっている(図6)。

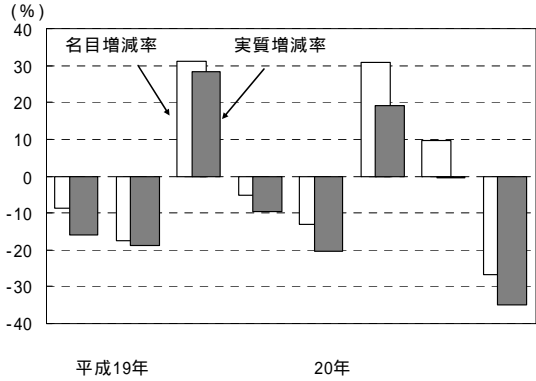
図6 国内パック旅行費の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



**外国パック旅行費**

外国パック旅行費は、平成20年10~12月期は前期より減少幅が拡大し、実質34.8%の減少となっており、7~9月期以降2期連続の実質減少となっている(図7)。

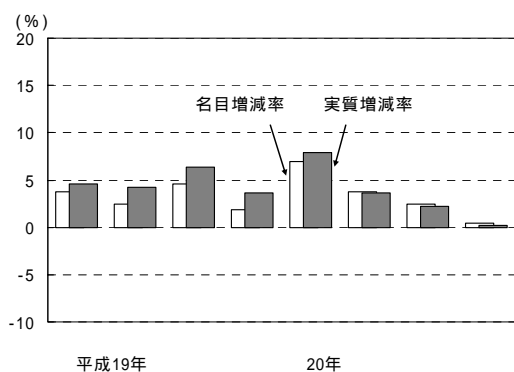
図7 外国パック旅行費の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



(2) 情報通信関係費は増加幅が縮小

情報通信関係費<sup>注2</sup>は、平成20年10～12月期は前期より増加幅が縮小し、実質0.1%の増加となったものの、18年1～3月期以降12期連続の実質増加となっている(図8)。

図8 情報通信関係費の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



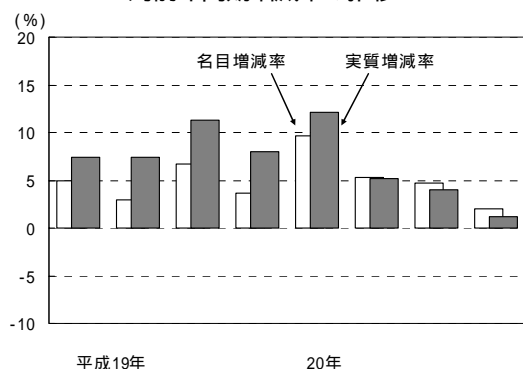
注2) 「情報通信関係費」とは、固定電話通信料、移動電話通信料、NHK放送受信料、ケーブルテレビ受信料、「他の受信料」及びインターネット接続料を合計したものである。また、「他の受信料」とは、NHK放送受信料及びケーブルテレビ受信料以外の受信料をいう。

情報通信関係費の主な品目の動きは、次のようになっている。

移動電話通信料

移動電話通信料は、平成20年10～12月期は前期より増加幅は縮小したものの、前年同期に比べ実質1.2%の増加となっている(図9)。

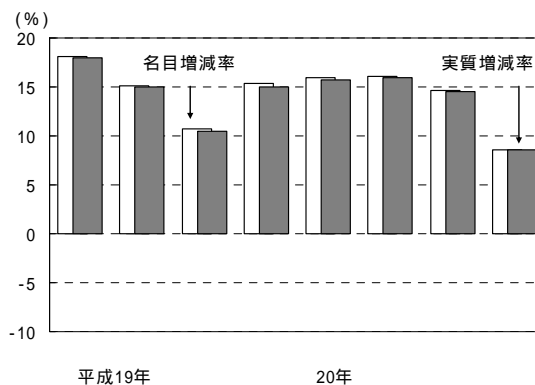
図9 移動電話通信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



インターネット接続料

インターネット接続料は、平成20年10～12月期は前期より増加幅が縮小したものの、前年同期に比べ実質8.6%の増加となっている(図10)。

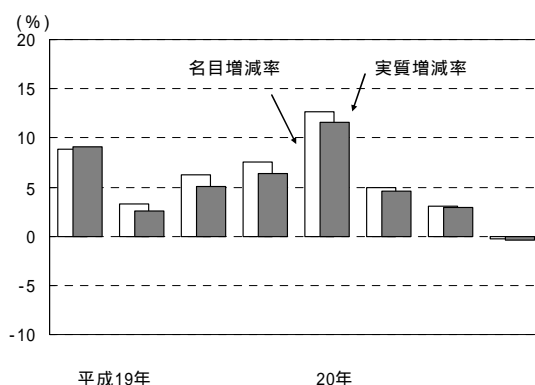
図10 インターネット接続料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



ケーブルテレビ受信料

ケーブルテレビ受信料は、平成20年10～12月期は実質0.4%の減少となり、比較可能な18年1～3月期以降、初めての実質減少となっている(図11)。

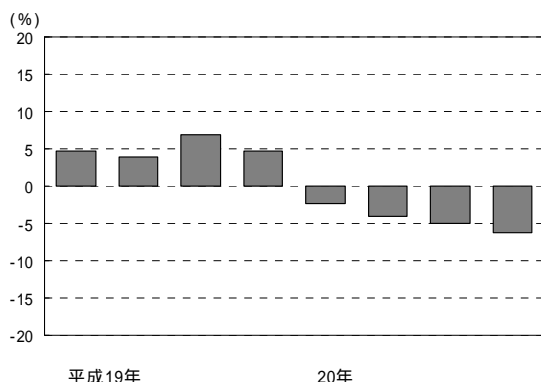
図11 ケーブルテレビ受信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



## 2 交際費は名目減少

交際費は、平成20年10～12月期は前期より減少幅が拡大し、前年同期に比べ名目6.2%の減少となり、20年1～3月期以降4期連続して名目減少となっている（図12）。

図12 交際費の四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移

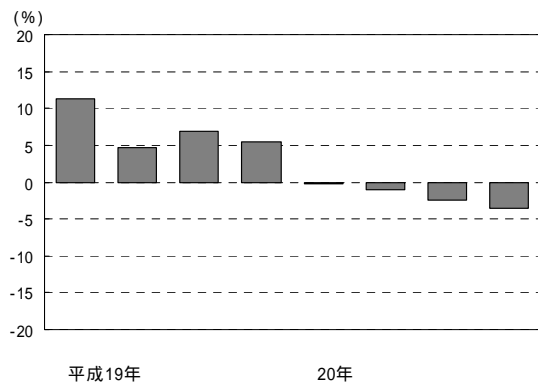


交際費の主な費目の動きは次のようになっている。

### 食料

食料は、平成20年10～12月期は前期より減少幅が拡大し、前年同期に比べ名目3.5%の減少となり、20年1～3月期以降4期連続して名目減少となっている（図13）。

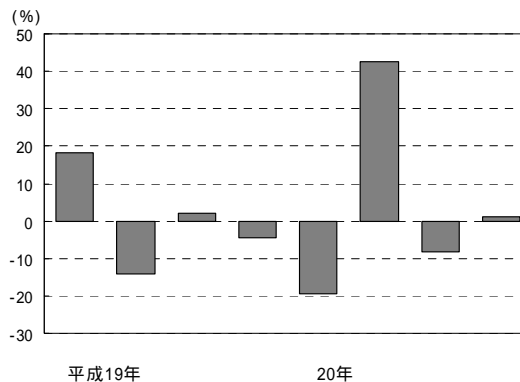
図13 食料の四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移



### 家具・家事用品

家具・家事用品は、平成20年10～12月期は名目1.0%の増加となり、20年4～6月期以来2期ぶりの名目増加となっている（図14）。

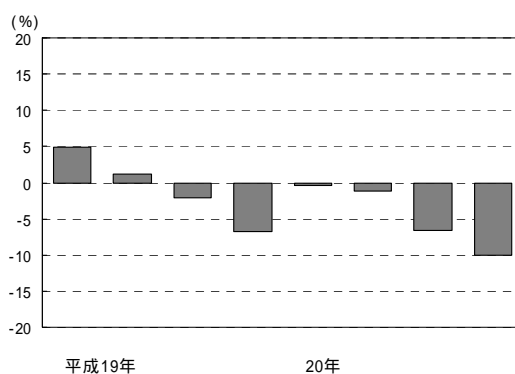
図14 家具・家事用品の四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移



### 被服及び履物

被服及び履物は、平成20年10～12月期は前期より減少幅が拡大し、前年同期に比べ名目10.1%の減少となり、19年7～9月期以降6期連続して名目減少となっている（図15）。

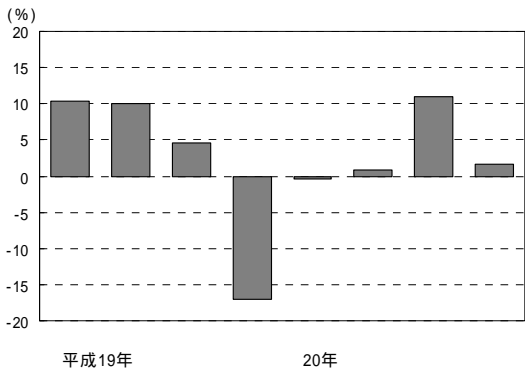
図15 被服及び履物の四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移



教養娯楽

教養娯楽は、平成20年10～12月期は、前期より増加幅は縮小したものの、前年同期に比べ名目1.7%の増加となり、20年4～6月期以降3期連続して名目増加となっている（図16）。

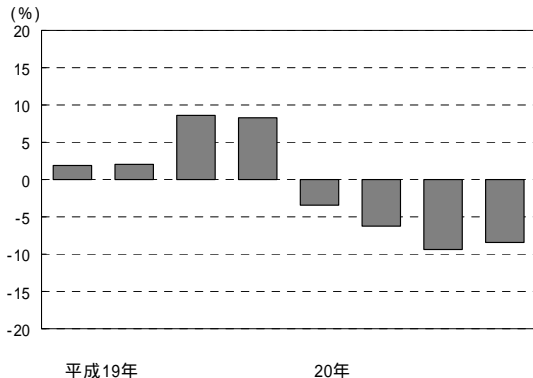
図16 教養娯楽の四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移



贈与金

贈与金は、平成20年10～12月期は、前期より減少幅は縮小したものの、前年同期に比べ名目8.5%の減少となり、20年1～3月期以降4期連続して名目減少となっている（図17）。

図17 贈与金の四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移



最近の家計をめぐる事象

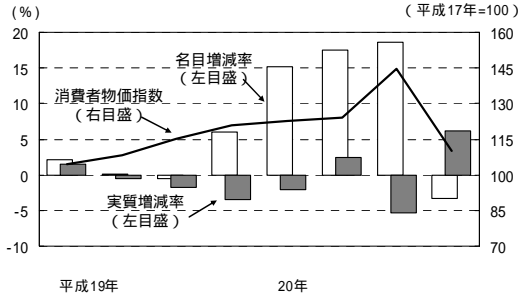
1 原油関連品目の動き

原油価格の上昇がおさまり、価格が低下しているガソリン及び灯油について、支出金額の推移をみると、次のようになっている。

ガソリン

ガソリンは、平成20年10～12月期は、前期より大幅に価格が低下し、前年同期と比べても低下していることなどから、19年7～9月期以来5期ぶりに名目減少となったものの、20年4～6月期以来2期ぶりに実質増加となっている（図18）。

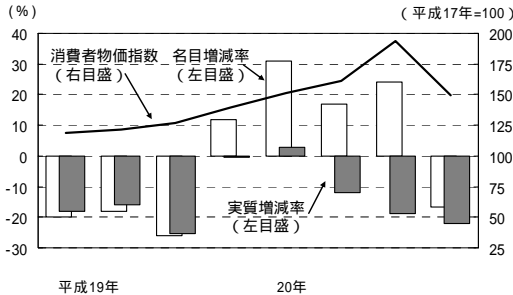
図18 ガソリンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



灯油

灯油は、平成20年10～12月期は、前期より大幅に価格が低下したものの、前年同期と比べると価格が上昇していることなどから、20年4～6月期以降3期連続で実質減少となっている（図19）。

図19 灯油の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



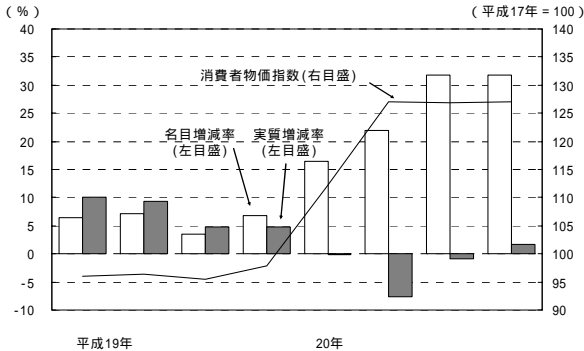
2 価格が上昇した主な品目の動き

価格の上昇が世帯の購入に影響したとみられる品目について支出金額の推移をみると、次のようになっている。

スパゲッティ

スパゲッティは、価格が上昇していることから、平成20年1～3月期以降、前年同期に比べ3期連続の実質減少となった。平成20年10～12月期は実質増加に転じた（図20）。

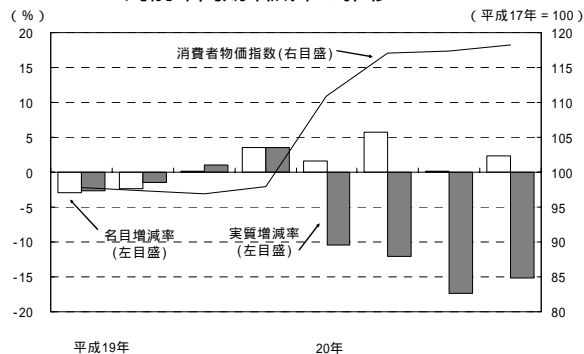
図20 スパゲッティの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



カップめん

カップめんは、価格が上昇していることから、平成20年1～3月期以降、前年同期に比べ4期連続の実質減少となっている（図21）。

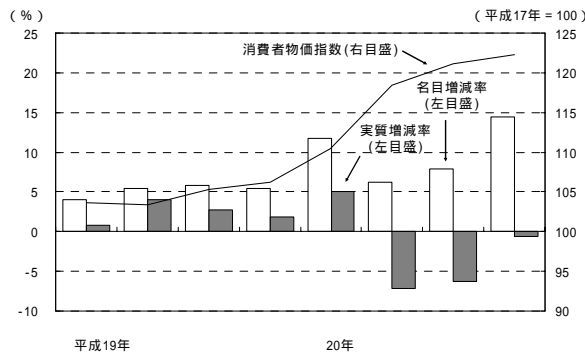
図21 カップめんの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



チーズ

チーズは、価格が上昇していることなどから、平成20年4～6月期以降、前年同期に比べ3期連続の実質減少となっている（図22）。

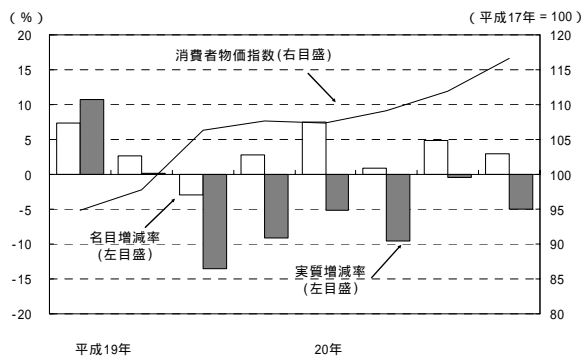
図22 チーズの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



マヨネーズ・ドレッシング

マヨネーズ・ドレッシングは、価格が上昇していることなどから、平成19年7～9月期以降、前年同期に比べ6期連続の実質減少となっている（図23）。

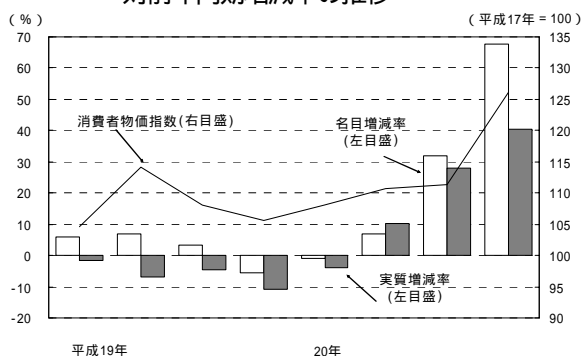
図23 マヨネーズ・ドレッシングの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



### バナナ

バナナは、価格が上昇しているものの、平成20年4～6月期以降、3期連続して実質増加となっている（図24）。

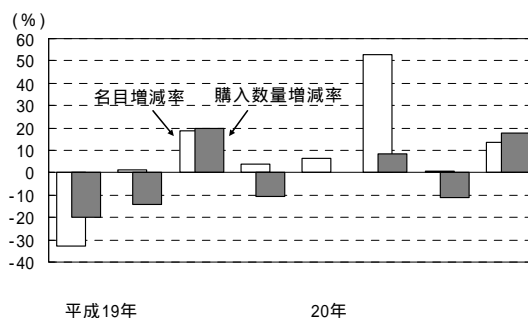
図24 バナナの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



### ビデオデッキ

ビデオデッキは、平成20年10～12月期は、購入数量が増加し、名目増加となった。平成19年4～6月期以降7期連続の名目増加となっている（図26）。

図26 ビデオデッキの四半期別支出金額の対前年同期名目増減率及び購入数量増減率の推移



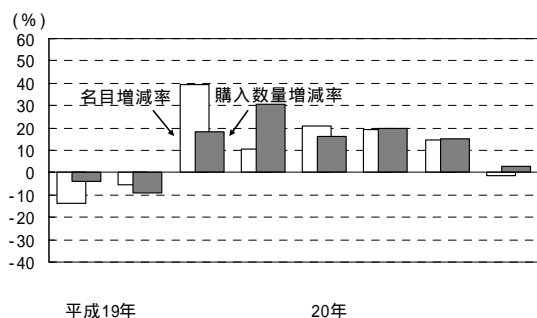
## 3 耐久財の主な品目の動き

耐久財の主な品目について、支出金額と購入数量の推移をみると、次のようになっている。

### テレビ

テレビは、平成20年10～12月期は、名目減少となったものの、購入数量は増加した。平成19年7～9月期以降6期連続で購入数量は増加している（図25）。

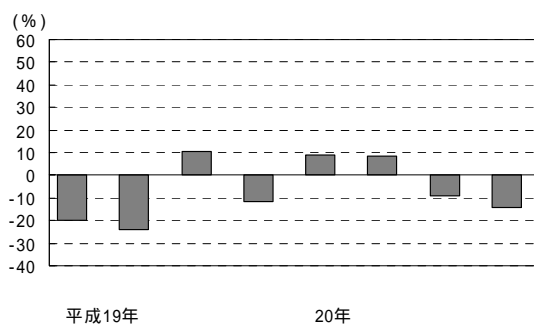
図25 テレビの四半期別支出金額の対前年同期名目増減率及び購入数量増減率の推移



### カメラ

カメラは、平成20年10～12月期は、前期より減少幅が拡大し、7～9月期以降2期連続の名目減少となっている（図27）。

図27 カメラの四半期別支出金額の対前年同期名目増減率の推移



(注)カメラの購入数量は調査していない。

(平成21年2月27日 作成)